

# AWC通信

## チェンライの山の村で

マリ・クリスティーン

9月初旬、私が教えている東京女子大学の学生14名と一緒にチェンライ、チェンマイに行きました。チェンライでは、昨年獅子舞が訪問したパーツキヤ村でホームステイをしました。

タイ北部では、村興しの一環としてホームステイを推奨しています。パーツキヤ村のマノップ村長は「私たちの村には滝などの景勝の地はありませんが、村人全員が助け合って生活している村です。ゆっくり過ごして下さい。」と、私たちを歓迎して下さいました。

パーツキヤ村は、人口が630人で、アカ族とラフ族あわせて約100世帯が陸稲や野菜などの農業と豚や鶏を育てている村です。大きな家族のように暮らしているという村長の言葉通り、昔からの伝統と文化を大切に、森と共存しながら村人が助け合って生活をしています。国有林の指定地域ではありますが、切り拓いて良い場所を決め、住むところを確保し、森林保全のために、マンゴーや竜眼などの食糧となる植物を選んで植え、村人がしっかりと食べられることを何より大切にしています。食料自給率は80%です。「村民の食糧確保が第一なので、まずは自分達が食べ、残ったものを売っています。その次に重要なのは若者たちの育成です。あと5年くらいで村も高齢化が進むため、様々な研究機関等と提携しながら次世代の育成に力を入れ、村の発展を考えています。」と村長。子どもや若者が村でいつまでも暮らしていけるように、ハーブの育成など換金作物の栽培にも積極的に取り組んでいます。

国連は2015年9月に2030年までに世界中が取り組むべき目標として「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」(SDGs)を、150を超える加盟国首脳が参加した国連サミットで正式に採択しました。そして、今は日本の中でも幼稚園の子ども達もこの目標の勉強を始めています。なぜこの目標の設定が必要であったかということ、私たちの住む世界は、貧困、格差の拡大、気候変動、汚染、野生生物の減少などにより、今のままの暮らしを続けていると、地球は持続不可能になるという脅威にさらされているからです。

パーツキヤ村で村長の話を聞き、SDGsはこの村では当たり前のように実行されているのだということに感動しました。私は仕事でSDGsの実践についての講演依頼を受けることも多いのですが、頭で考えて肩肘張って新しいことを取り入れることを求めるのがSDGsではないのです。昔からの生活を大切に維持することで当然のようにSDGsを実行している人々に出会い、目から鱗が落ちたように感じました。

日ごろから便利に慣れ、エネルギーや水、プラスチック類は使い放題で、食料自給率が低いにも関わらず食料廃棄等には無頓着な私たちの生き方は、便利さを追求するあまり不自然な方向に向かっているのだということを、今一度しっかりと意識し、見直していかなければならないということを強く感じました。里山の暮らしのすばらしさを再認識させられました。



美しい村の風景



斜面で育てているトウモロコシ



マノップ村長とマリ代表



パーツキヤ村





## おたがいさまプロジェクト

2018年からのプロジェクトも2年目が終わろうとしています。最初は、チェンライ県のノンフォーマルエデュケーション（子ども時代に教育を受けられなかったおとなも対象の教育システム）の中学校課程のギー先生から、受け持っている生徒で家庭に問題があり自宅や学校に寝泊まりさせている子どもたち（当時15歳）4名の私設寮を作りたいという相談がきっかけでした。過去に施設をたらい回しにされた子どももいたため、私設寮の運営はなかなか難しく、多々の困難もありましたが、一時的なシェルターとして彼らの受け皿を提供できたことは良かったと思います。同時期にHIV感染した母親と息子（感染なし）の母子家庭への支援も行いました。私設寮の子どもたちは、2019年10月に無事、中学校の卒業資格を得ました。最も困難な状況にあるE君は次のステップであるバイクや自動車の修理工の職業訓練校での生活を始めることになり、最初の三ヶ月間は継続して支援することにしました。

2019年の事業の特徴は、活動に広がりや将来性が出てきたことです。バイク事故で下半身不随の障がいを持ったP君のキノコファーム、市内から離れた山地民のコミュニティ内にある学校の整備、山地民の子どもたちが暮らす寮で、現金収入を得るためのアイスクリーム販売で使用するテント購入、障がいを持つ家庭への養鶏小屋建設、女性たちの自立のためのミシン贈呈など多方面の支援を実施することが出来ました。生活費を支援するのではなく、自分たちで頑張ろうとしている人たちに、最初の機材購入などのスタートアップへの協力をしています。そしてこれらの事業を実施するギー先生を、私設寮にいたE君や他の子どもたちが一緒に手伝っています。学校整備の草刈りや養鶏小屋建設などは、ギー先生よりも普段やり慣れている子どもたちのほうがテキパキと動いてくれるそうです。

日々の生活費にも困るような子どもたちや、出身によって様々な差別を受け、家庭も決して居心地の良い空間ではなく、一時は薬物に手を出してしまった子もありますが、人のために動ける気持ちさが素晴らしいと思います。同じような境遇の仲間や信頼できるおとなとの出会いで本来の優しさやいきいきとした表情が眩しいくらいです。来年はさらなる広がりやつながりに期待したいと思います。（AWCユースリーダー 原梓）



テキパキと働く子ども達



学校の補修作業を終えて



アイスクリーム販売用テント

## おもちゃとキルトを保育園に

9月の東京女子大学のスタディツアーで、「日本おもちゃ図書館財団」からのおもちゃと、支援キルトの会「ふーぷ」からのキルトをチェンライ県メースワイ郡のバーンパナセーリー保育園に届けました。この保育園には周辺の村からアカ族、ラフ族、中国人などの3歳、4歳の子ども64人が通っています。村の産業は農業で梅や紅茶の産地です。

子どもたちはプレゼントに目を輝かせ、さっそく遊び始め、食事時間になってもおもちゃを手放さず、何度も注意をされるほどでした。

キルトの1枚はパーツキヤ村の村長の家に赤ちゃんが生まれたので、出産祝いにお届けしました。12月に入り今年はタイの山岳地域も冷え込みが厳しいという知らせが入りました。キルトはとても重宝されていることと思います。



## なぜ無罪？

今年3月26日、愛知県で実の娘を長期間性虐待していたとして起訴された男性に「無罪」判決が言い渡されました。被害女性が抵抗できなかったという状況を原告側が立証できなかったことが無罪判決の理由です。今年はこのような判決が3月から福岡県、静岡県などで立て続けに4件あり、様々なところで疑問や抗議の声が上がっています。性犯罪を巡っては2017年に110年前にできた刑法が改正されました。しかし、性犯罪の被害者が訴え続けていた「抗拒不能」に関してはこの改正から抜け落ちてしまいました。

この判決をきっかけに「性暴力を許さない」という思いに共感する人々が花を片手に、刑法のさらなる改正を呼び掛ける「フラワーデモ」が4月11日に行われました。女性たちが声を挙げたこの動きは、それ以来毎月11日に各地で実施されており、日本全国にその輪が広がり、11月11日には北海道から沖縄まで全国27か所で開催されました。日ごろは自分達が法律によって守られていると感じながら暮らしていますが、弱者が本当に守られているのか、これらの判決をきっかけにしっかりと関心を持ち続けていきたいと思っています。

## AIDS孤児里親基金

今年も皆様から寄せられたAIDS孤児里親基金は「愛の家」「希望の家」に届けしました。

### 愛の家

4歳から25歳までの33人が、一つの家族のように暮らしています。母子感染の子どももすでに成人になり、それぞれが自分の目指す道を歩き始めています。しかし、自立して施設を出ると抗HIV薬を飲まなくなることがあり、昨年は男の子が一人亡くなりました。薬と食事は大変重要で、まれに腎機能障害を起こすこともあるので慎重に対応し、心のケアにも力を入れています。これまで年齢の制限をせずに、能力に合わせて好きな道を選ぶように運営してきたのですが、最近は寄付金が減り、子どもたちの進路にも支障が出始めているようです。

スラムの中の危険から子どもを保護するために運営しているデイケアには、現在48名が通っています。栄養状態の良くない子どもには朝食の提供も行い、家族の分も含めた夕食を持たせ、花売りなどに出されることなくケアしています。



### 希望の家

この施設の定員は25名です。現在、5歳から高校3年生まで22人が生活しており、そのうちの6人が無国籍です。国籍がないと就職もできず、保険なども受けられません。ここには、これまでも無国籍の子がいましたが「希望の家」が仲立ちとなり国籍を取得できたことで、公務員や先生になって働いているという例もあるので、無国籍の6人の子どもたちにも同様に国籍取得を目指しているとのこと。18歳以上になり施設を出た子ども達は、毎年必ず帰ってきて様々な手伝いをしているようです。

孤児ではないけれど、貧困家庭の子どもたちのためのガサロン寮の子ども達も元気に学校に通っています。夕食を子どもたちと一緒にいただきました。テキパキと準備を手伝い、私たちが食べやすいように気配りをしてくれる様子に希望の家の活動の成果と、子どもたちの成長の証を見た思いがしました。





## 「獅子舞 in タイ」写真展

2018年に、女川の獅子舞がタイの村を訪問した「獅子舞 in タイ」の写真報告展を、フォーラム南太田(5月25日～6月2日)、横浜市なか区民活動センター(7月1日～30日)の2会場で開催しました。

会場では、心地よい笛の音と力強い太鼓のBGMが流れる中、獅子舞に驚きながらも心から楽しんだタイの村や子どもたちの様子などを来場された方にお話し、伝統文化の継承の重要性を理解していただくことができました。



フォーラム南太田の写真展会場

## スラムの女性に

9月に、ストリートチルドレンやスラムの支援を行っているドロップインセンターを訪問した時に、スラムに住む、不正出血が続いているけど貧困ゆえに病院に行けない女性の話を伺いました。出血の手当てをするためのナプキンも手に入りにくいと聞き、近くの薬局にあるだけのナプキンを買ってその女性に届けてくれるようお願いしました。何とか医療機関に繋がり、早く回復するようにと祈っています。



## ご寄付・ご協力御礼

2018年12月16日～2019年12月12日 (敬称略・順不同)

【AIDS孤児里親基金】黒須春美 斎藤徹 阿部潔 早川すみえ 貴田晞照 山口正子 伊藤康子 谷口雅昭 佐々木雅祥・律 高橋清実 福島咲 阿部潔 増井俊樹 地球の子どもを応援する会 山本博子 支援キルトの会ふーぷ

【おなかいっぱいプロジェクト】原輝美 黒須春美 鈴木八重子 山本久美子 横田京子 林恵子 金子セツ子 吉岡啓子 六波羅昭 川口幸博 日比三枝子 斎藤徹 尾形登志雄 高品都 阿部潔 五十嵐千恵子 小島みゆき 佐藤志津子 貴田晞照 加藤弘子 柳原秀子 大橋真理子 岡部淑夫 中村田鶴子 小林恵津子 高嶋威男 堀江五十鈴 竹内知珠子 尾崎知子 茨木唯衣 佐々木雅祥・律 今井日出 山本博子 福島生子 竹内知珠子 原輝美 増井俊樹 落合貴美恵

【かいてプロジェクト】大野佐和子 斎藤徹 高品都 阿部潔 五十嵐千恵子 佐々木雅祥・律 支援キルトの会ふーぷ

【タイライブラリープロジェクト】一般財団法人日本おもちゃ図書館財団 阿部潔 山本博子 増井俊樹 マリ・クリスティーン 佐々木雅祥・律

【AWC基金】増井俊樹 笹田克子 阿部真紀 増岡喜久子 朝廣玲子 幼き聖マリア修道会 秋元千代子 城条洋子 山本博子 阿部潔 国際交流ボランティアみなとグループ 川辺次郎 村田順子 落合貴美恵 竹田英一・啓子 細川もなみ 糠澤佐和子 大橋律子 田口美恵子 佐伯昭夫 加藤澄子 城条洋子 佐藤利明 佐藤真吾 国際ソロプチミスト横浜西 八島恵理 増井俊樹 坂口育子 石渡まき子 山本嘉彦 藤田美江子 清水雅子 マリ・クリスティーン 大野佐和子 渡邊勇夫 竹田英一・啓子 安藤芳子 増井俊樹 金子恵子

【おたがいさまプロジェクト】斎藤徹 高品都 阿部潔 小島みゆき 茨木唯衣 山本良徳 佐々木雅祥・律 増井俊樹 原梓 支援キルトの会ふーぷ

【書き損じはがき・切手】増岡喜久子 山本久美子 横田京子 大塚久仁子・南美 林恵子 柳原秀子 高安照代 朝廣玲子 重原文明 阿部潔 国際交流ボランティアみなとグループ 伊藤康子 中村田鶴子 大江絵美 岡部淑夫 山本博子 大橋真理子 田口美恵子 高品都 半田あや 福島生子 池谷朋子 渡辺和美 川野安子 馬淵信彦 野尻悠紀子 川辺次郎 笠本雅巳 鶴田寿治 小林恵津子 茨木夢子 ガールスカウト山梨県連盟 岡田靖子 今井日出 安藤芳子 金子セツ子 落合貴美恵 宮崎恵子 藤田美江子 安尾朗子 笠本雅巳 堀江昭 藤田美江子 原田幸子 支援キルトの会ふーぷ 増井俊樹 亀田亜子 カフェロータス 橋本美史 後藤広芳 第一生命株式会社溝の口営業オフィス 山本佳世 南恭子 渡邊勇夫 フォーラム新沢(伊東久) 小池田しげ子 松村絹子

※記入漏れ、間違いなどございましたら、お手数ですが事務局までご連絡ください。

### ご寄付のお願い

アジアの女性と子どもネットワークの事業は皆様のご寄付で実施しています。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

郵便振替 00200-0-4109  
口座名：AWC

### 書き損じはがき ご寄付のお願い

「おなかいっぱいプロジェクト」は、書き損じはがき2枚で3食分の給食食材費になります。

ストリートチルドレンの子どもたちがご飯をおなかいっぱい食べられるように、お手元の書き損じはがきや未使用切手をぜひAWC事務局までお送りください。子どもたちの健やかな成長のためにご協力をよろしくお願いします。

AWC事務局：〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内

発行元:アジアの女性と子どもネットワーク

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-

尾上町ビル9F YAAIC内

Tel/FAX 045-650-5430

E-mail : awc@h6.dion.ne.jp

発行責任者:山本博子 編集担当:安藤芳子、原梓